

会員拡大運動を成功させ、主体的力量の強化に全力をつくそう（アピール）

11,000名の会勢実現という第23期の目標は達成はできなかったものの、年間を通して会員拡大運動に取り組むことによって、会員の減少傾向を止め、大会開催時の5月においては7年ぶりに前年を上回るという成果を挙げることができました。

これは、全支部あげて会員拡大運動に取り組んだ結果によるものです。

本大会を22支部が増勢で迎え、福井支部の目標達成をはじめ多くの支部で成果を上げることができたことは、計画を持ち着実に取り組んだ結果によるもので、“目標は大きくとも、意識的に追求すれば必ず出来る”ということを実証しました。

教育反動立法や「日米科学技術協力協定」の改定などの強行に見られるように、大学研究機関の教育研究基盤が根本からほりくずされようとしている現在、これをはね返す活動がぜひとも必要です。

わたしたちは、日本の科学の進歩と平和・独立・民主主義・生活向上のためにたたかってきた先人科学者の伝統をうけつぎ、さらに発展させるという責任を果たさねばなりません。そのためには、会勢の躍進をはかり、会活動を発展させ、名実ともにその主体的力量を強化することが不可欠です。

この実現にむけて、一人ひとりの研究者・技術者の要求に目を向け、支部・分会活動を活性化し、多くの会員を迎えましょう。とりわけ若手研究者の入会を重点的にすすめ、科学者運動の継承・発展をはかりましょう。

第24期は、全国津々浦々に会員拡大の大きなうねりを巻き起こそうではありませんか。

会員拡大運動の成功は、これをいかに全会員のものにするかにかかっています。直ちに取りかかり、次回定期大会を全会員で喜びをわかちあえる大飛躍の大会として迎えましょう。

1988年5月29日

日本科学者会議第23回定期大会